

こう じゅう じん たい こっ か しょう  
**後縦靭帯骨化症友の会**  
**会報**

後縦靭帯骨化症友の会会報 第1号

「仲間とともに」

「後縦靭帯骨化症友の会 発足記念基調講演」

「後縦靭帯骨化症の症状と治療」



後縦靭帯骨化症友の会  
事務局

## 「後縦靭帯骨化症友の会」会報(第1号)に寄せて

宮城県保健福祉部健康対策課

「後縦靭帯骨化症友の会」会報(第1号)発行に当たり、宮城県の状況などについて、お知らせしたいと思います。

県内には、いわゆる難病(特定疾患)の患者さんが16,626人(平成18.3)います。現在、特定疾患は45疾患ありますが、このうち後縦靭帯骨化症の患者さんは349人となっています。難病患者は年々増加傾向にあり、患者や家族の皆様が安心して生活できる環境の整備がますます求められているところです。

一方、患者会については、患者数が少数であったり、病状が重い患者が多いなど疾患により状況が違ふことや、患者会を設立・運営していくためには、患者の皆様はもちろん、主治医の先生、役員や事務局を引き受けていただける方など多くの方々の協力が必要となるため、あまり数が多くないのが現状です。このような状況の中、後縦靭帯骨化症友の会が設立され、医療講演会の開催など着実に活動されてきていることは、すばらしいことだと思います。また、会報は、医療相談会等への参加や電話等での相談が難しい患者さんにとって重要な情報であり、患者同士の交流を深める役割も

あると伺っていますので、是非、継続して発行していただきたいと思っています。

さて、県では、特定疾患をはじめとする各種治療研究事業、保健所での医療相談会、ALS等総合対策事業、宮城県難病相談支援センター事業などを行っています。

県難病相談支援センターの運営は、宮城県患者・家族団体連絡協議会にお願いしており、専門相談員のほか、患者会の皆様にも相談事業等のお手伝いをいただいているところです。相談された方からは、日ごろの悩みを同じ目線で親身に聞いていただいているとの声が寄せられているほか、患者会の方からは、自分と同じ病気だけでなく、他の病気の方と話をすることにより、いろいろ気づかされることも多いとの意見も伺っていますので、今後とも、より、多くの方々にご利用いただけるよう努力したいと思います。

最後になりますが、後縦靭帯骨化症友の会が、これまで以上に、患者や家族の皆様と親しまれ、お互いに支え合える患者会となっていくことを期待しています。

## 後縦靭帯骨化症を恐れないために

公立学校共済組合 東北中央病院 田中 靖久

皆様、ご無沙汰しております。友の会の顧問医を務めさせて頂いております田中です。

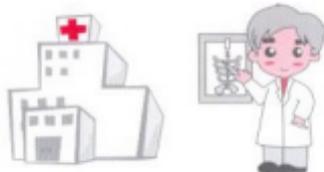
6月3日に講演の機会を与えて頂いた時に在任しております東北大学医学部整形外科教室を離れ、9月1日から、山形市にあります東北中央病院に院長として勤務しております。勿論、月と木曜日に脊椎外来の一般診療もしております。宣伝めいて恐縮ですが、当院のすみずみまで清潔であることに努力しております。そして、誠心誠意で、最良の医療技術をもって診療にあたることを心がけております。ホームページ(<http://www.tohoku-ctr-hsp.com>)をご覧くださいければ幸いです。

さて、後縦靭帯骨化症は、病名が見慣れない、そして字面の多い重々しい漢字から成り立っていて、しかも病名やら特定疾患などと聞けば、患者の皆様は多大な恐怖心を抱かれるのではないのでしょうか。しかし、先の講演でも述べましたように、後縦靭帯の骨化そのものはサイズの小さいものを含めれば一般人においてごく普通にみられるものです。当然ながら、後縦靭帯骨化があるからといって必ずしも症状をきたす

訳ではありません。

症状をきたせば「骨化症」との病名が付けられます。その症状は、自然に改善し得るものから、軽症に留まるもの、残念ながら進行性の、あるいは重症の骨化症であっても、現在では安全で有効な手術法が開発されております。敵すなわち病気の正体をしっかりと見定めることが大切です。その結果、必要以上に恐れることが無くなり、病気の克服に立ち向かうことができます。

後縦靭帯骨化症の理解と克服に、微力ながら貢献して行きたいと存じます。今後とも宜しくお願い申し上げます。



# 後縦靭帯骨化症医療講演会

「後縦靭帯骨化症の症状と治療」

平成18年6月3日 仙台市青年文化センター

東北大学病院整形外科 田中先生

質問回答一覧(29件)

性別 年齢 質問及び回答

**Q 1** 女 82 40年位前から腰が高く労災病院に1ヶ月入院したこともあります。20年位前から膝から水を時々整形外科でとってもらっています。現在も通院していますが背中の下から膝にかけて痛く、座ることが出来ず歩行も長く出来ません。右足全体が痺れています。今回新聞をみて参加させていただきました。(SH)

さきほど申しましたけども、背中の下から膝にかけてという、これは、頸椎の後縦靭帯骨化症あるいは胸椎の後縦靭帯骨化症から起きている症状でも矛盾しません。ただし、絶えずあるのかどうか。この方は、右足全体も痺れていると言っていますけども、痛みや痺れが絶えずあるのか、ほんとうに絶えずあるのであればですね、やはり後縦靭帯骨化症あるいは脊髄症の可能性があるので、主治医の先生にちゃんと訴えて的確な診断をもらってください。

やー時々でるんだとか、今日は痺れているけど昨日はそうでもなかったという場合は、脊髄症の可能性は低いですが、あるいは脊髄症であっても、非常に軽度な段階ですので余裕があります。そういうふう理解してください。

**Q 2** 女 58 術後13年が経過したが年々左足下肢の痛みがひどくなっている。階段の上り下りが特に大変に成っている。今後益々症状が悪化すると思われるが、痛みを和らげる具体的治療方法は本当にないのでしょうか。整骨院、ハリ治療、マッサージ等に通って一時に良くなった気がするも、翌日からまた同じ状態に戻り痛みが続いている。

私さきほど言いましたけれども、頸椎の手術をしている場合には、そこで脊柱管という脊髄の収まっている管をもう広げてありますし、しかも後縦靭帯骨化症の方に…この方椎弓形成術をやったのか書いてありませんが、椎弓形成術をやりますと、殆どの方で、頸椎の可動性が少なくなってきます。

たとえば、いままで45度できたのが、5年後に20度位に半減してきます。手術をして月日が経てば経つほど、少しずつですが動きが悪くなってきます。固定された状態に近づいてきます。固定されることは首の動きについては好都合ではないですけど、脊椎については良い方向に働きます。頸椎の切除を一度してしまえば、症状が再発することは減さないのです。ただそれは言っても、医学的にはそれは言っても、いや先生俺は悪くなってきているんだと、しばしば言われます。それに対して明確な答えをださなくて困ることが多いんですね。今、脊椎そのものの加齢変化なのかとも思うんですが、そう患者さんに言うとも患者さんもわかりませんし、言葉を濁して終わることが多いのですが、あの理屈上は悪くなることはあまり考えられないんですね。本当に悪くなっているのであれば、胸椎のほうを調べる必要があると思います。他の場所をチェックする必要があると思います。

**Q 3** 男 60 平成17年5月25日OPLLにて西多賀病院で手術。3ヶ月に一度診察、毎月一度投薬を受ける度に来院。現在服用している薬に対し血圧等で異常なし(肝機能)。18年9月末までのOPLL認定の継続申請を続けるべきか現在身体障害者2級認定。又週3回整骨院にて低周波、マッサージ治療。また6/6から週2回介護保険にて筋トレを始めます。又、週1回温水プールにて歩行訓練中です。続けていくべきか現時点での適宜な確立は。

これは当然のように続けられたら良いと思います。あまり悪患はないかも知れませんが、当然資格はありますし、続けられたら良いと思います。(OPLL認定の継続申請)

**Q 4** 男 74 6月6日産の検査をして手術するかしないか決まります。先生に手術した後遺症でどちらかの足がきかなくなるかも知れないといわれました。心配なのでお聞きしたいです。過去4回手術しています。(頸椎)

最近医者も訴訟のことが心配でして、厳しく言う傾向があります。最悪のことを言う傾向にあります。その頻度は決して高くありません。私も実は手術の前には、まず死ぬ可能性もあるし、手術で死ぬ可能性があることから入ってきます。そう言えと言われるんですね。まず、麻酔で死ぬ可能性もあるし、手術で死ぬ可能性があるということ必ず言います。ですから、手術前に話をしているのと見る見る患者さんの顔色が曇っていくことがわかるんですね。恐ろしい顔になっていくことがわかるんですね。

ど、のように指導されています。ただ、頻度は非常に低いです。麻酔の事故は3万件～6万件に1件ですから、飛行機は1万件に1件は事故起こすと言われていますから、それより安全かなと思うんですけど、手術中の事故もゼロではないですね。頻度は低いですが、そういう風に理解していただきたいと思います。それから、片足が利かなくなるということは、これも減多に起きないですけどね。確立を聞いてごらんになつたらいいと思います。主治医の先生に頻度を。

(質問聞き取れず)相当高いですね。腰の手術…病気の種類にもよるんですよ、私今念頭においてるのは、頸椎の後縦韌帯骨化症の手術あるいは、腰の、みのもんたさんがやったような手術を、あれを念頭において回答していますが、病気の種類によってはいろんなことが起こりますので、その可能性もあろうかと思えます。

**Q 5** 骨のことなので、手術しかないと思いますが、痛みを緩和する方法として、温泉とか、温熱治療とかの効果はどうなのでしょう。

決して否定はしません。一時的にせよ症状が改善する可能性は全くはないので、決して否定はしませんが、脊髄症を起こしている患者さんに、根本的な治療として温泉療法とか、温熱療法というのはないですね。ただ、一時的に症状が改善する、気分がよくなるというふうな効果はあるでしょうから、そういう目的でいらっしゃるのはいくら問題ないと思います。

**Q 6** 女 52 胸椎の骨化症の手術の悪化例はあるのでしょうか。又、手術の再発は、症状が(痺れ、痛みなど)強いという方を看護しているのですが、再手術をするという場合は、何か条件はありますか。年齢・程度など。現在通院中ですが、主治医の先生は悪くなっていないと言っているようです。

残念ですけど、先ほど講演でも述べましたけども、胸椎の場合は手術した直後から手術前より悪くなっているということが、しばしば起こるんですね。細心の注意をはらってやるんですけども、頸椎の手術に比べてその確率はかなり高いですね。何とかしたいんですが、ですから逆に、胸椎の後縦韌帯骨化症の手術をする施設は、非常に限られています。一般の病院ではやらないはずですよ。かなりの数が大学病院に紹介されてきます。我々も相当な覚悟で臨むことがほとんどですね。ただ、他に手がない場合が多いんですね。ですから十分に説明して、納得が得られたらやらざるをえない。踏み込むというふうな姿勢でいるんですけどね。

胸椎の手術が無事終了した際にですね、そのあと症状が再発するかどうか、これは幸いですが、減多にないと思います。胸椎は固定しますので、むしろ手術後経過を追うごとに良くなっていくことが多いですね。動続で固定しますでしょ。全属に骨で融合するまでは半年～1年かかります。完全融合していく過程でまた良くなっていきますので、手術直後たいして良くなっていない方でも、半年1年経つごとにだんだん良くなっていくことが結構あります。

**Q 7** 女 63 平成8年手術。3年位は良かったが、今現在は、背中あちこち痛いやら、ほてりやら。ふらつきも(左足)あります。胸椎にも骨化があり、痛みを和らげたいのが望みです。

恐らく首の手術をうけられた方だと思います。二つほど原因が考えられます。一つは、他の場所で悪さをきたしていないかと、それから、元手術したところでの症状がまた悪化しているとする、先ほどの質問と同じなんですけども、医学的にはあまりその原因が究明されることは少ないですね。

また圧迫されるということは減多にないもんですから。ただ、脊髄自体が加齢・変成、加齢に伴った変化ができてきて、悪化しているのかも知れません。ちょっとこれは難しいです。これはうまく回答できないです。

**Q 8** 女 69 黄色靭帯骨化症と言われていますが、手術は後縦韌帯骨化症と同様なのですか。

黄色靭帯骨化症というのは、脊髄に対してうしろにあります。うしろの方に、後縦韌帯というのは脊髄に対して前にあるんですね。椎体のうしろにあるから後縦韌帯骨化症というんですけど、脊髄との位置関係という前にあります。黄色靭帯は脊髄の位置関係といううしろであって、黄色靭帯骨化症は胸椎にしかおきません。その方も胸椎だと思えます。

もし、頸椎の黄色靭帯骨化症といわれていれば、みだた先生が怪しいので、他の病院へ行ったほうが良いと思うんですけど。頸椎に黄色靭帯骨化症はできないんです。胸椎の黄色靭帯骨化症の場合は、ほとんどが椎弓切除術という方法で対処しまして、比較的治りがいいです。同じ胸椎でも、後縦韌帯骨化症に比べて黄色靭帯骨化症のほうが治りがいいです。改善率が高いです。

**Q 9** 女 28 85歳の祖父が黄色靭帯骨化症なのですが、足の痺れと、歩くのがひどいそうなのですが、何か、楽になるような体操などがありますか。あと、気をつけることなどありますか。

体操でもって治すことは残念ながらできません。ありません。むしろ悪化させる場合があります。よほど注意して体操しないことです。むしろあぶないですよ。先ほど言いましたね、動かなくなる固定することが、脊髄にたいしていい方向に働く場合が多いです。動かすとかって骨髄に対する障害が強まる恐れがあります。むしろ体操は禁止すべきことにはなっていますね。

それから、この方ちゃんと治療を受けられるかも知れませんよ。85歳ですけど今医学が進歩していますので、80歳代で手術を受ける方がどんどん増えていますので。…あ…手術しているのですか。そうですか…誰が手術したか、私じゃないでよね。そうですか…全然良くなってませんでしたか。…そうですか。…何年前ですか。…5、6年前ですか。病院にいきました。そのことを訴えにいきました。そうですか。…あの、その場合以外に原因がないとすれば、様子をみざるをえないです。残念ですね。ただ、他の場所で症状をだしている場合もありますので、その場合は対処法がありますね。そういうことをおっしゃられたらどうですか。1回限じゃなく2回3回と訪れて。しつこく聞いたらいいと思います。しつこく。

**Q10 女 77** 左の足の親指のつま先が冷えたり、痛かったりする。寝たときに足が暑かったり、冷たくなったりするのは、糖尿もあるので、その故かと思っていたが、どちらなのか。膝下もだるい。太ももも、突っ張ってあまり歩けない。これも後縦靭帯骨化症の故か。糖尿からきているのか。知りたい。

一口になかなかいいづらいですね。後縦靭帯骨化症による脊髄症と、糖尿病の区別は症状からですと、なかなか鑑別できないですが、診断をするとすぐわかります。比較的簡単に。下肢の腱反射とって、ハンマーで腱を叩くんですけど、叩いて反応が強いと後縦靭帯骨化症ですし、糖尿病の方ですと逆に鈍くなりますから。そういった、ひとつの鑑別点ですけど他にいろいろありますので、どうぞ専門の先生にみてもらえば、しっかりと診断がなされるはずです。

**Q11 女 58** 頸椎の椎弓形成術(3-5番目)を受けた。H17.5右手親指付け根が、常に鈍く感じている。足もつれがひどくなってきている。少しでも痺れがとれるリハビリ又は投薬はあるのか。

これもですね、もう先ほど来から言っていることと同じになりますが、徐々に悪くなるとすれば、二つ考えられます。ひとつは他の場所、手術を受けていない場所が悪くなってきている可能性がある。ひとつは年齢に相応しい脊髄自体が少し悪化して障害を自然にきたして症状を悪化する場合がある。その場合、ちょっと良い方法はなくて、対処的にお薬を飲んでもらったり、温熱療法をしたりという方法にとどまらざるをえない場合が多いです。

**Q12 男 78** 頸椎後縦靭帯骨化症15年前西多賀病院でやりました。現在、腰から両足にかけて痺れとぐりぐり痛みがある。腰性の種々な病気の症状との違いを教えてください。靭帯が骨化したあとの靭帯の役割は何がするの。

15年前とちょうど私が西多賀病院にいた頃かなどきつしているのですけど、え…にている場合があります。頸椎が悪くて腰から足にかけて痺れる場合がありますし、腰が悪くて腰から足に痺れる場合があって、その二つだけを比べてみますと、似ているんですけど、診察をしますと鑑別できる場合が多いです。ちょうど腱反射の話をはじめたけれども、みのもたさんのように、頸部脊柱管狭窄症で足が痺れるのであれば、ハンマーで膝外腱、お皿の下をポンポンと叩いたときに、ピンと反応する反応が、腰が悪い場合はでなくなる、低下するんですね。首の悪い場合は、むしろ昂進しますから、これがひとつです。痺れる場合とか、筋力の低下、筋肉の力が落ちていないかどうか。首が悪い場合は脚の筋力の低下は珍しいです。起きる場合もありますけど。珍しいんです。腰の悪い場合には、脚の筋力の低下をきたすのは、しばしばあるんです。その他、いろいろな鑑別方法がありますので、これも専門医にいかれたらならば、ちゃんとみててくれると思います。

**Q13 女 59** 首と肩の痛みがきになります(後縦靭帯骨化症)です。生活での注意する事はなんですか。

首と肩の痛みが本当に後縦靭帯骨化症からきているのか難しいですね。手の痺れがきて、手もつれ、足の痺れがきている、足もつれるという、比較的たやすく後縦靭帯骨化症だといえるんですけど、首が痛い肩がこるという場合に、これが本当に後縦靭帯骨化症がきているかどうかというのは非常に難しい。診断ができない場合がありますね。これは率直に主治医の先生に聞かれたらいいとおもいます。後縦靭帯骨化症なのか、そうでないか、正直に答えていただけたらと思います。

**Q14 男 73** 弟も私も腰痛が初症状でした。現在も腰痛がありますが、頸椎に関連がありますか。自分、頸椎骨化症です。第黄色骨化症と聞いています。

頸椎の後縦靭帯骨化症の場合、あるいは脊髄症の場合に、腰が痛くなる人がいます。ただ、その場合に腰を動かしたから痛いということではないのです。普段どうも腰がツッパリとか、重苦しいとか、そういう症状になりまして、腰を動かして腰が痛いというのは腰が悪いですね。動かそうが腰は痛くないけれども、普段ずうっとジーンとする重苦しい、ツッパリというときは、脊柱症できている場合があります。頸部脊椎症、胸部脊椎症できている場合があります。

**Q15 男 45** 腰椎と胸椎の術式を教えてください。腰椎の手術後の成績も教えてください。先生の診察を受けたいのですが、外來で「田中先生」とお願いして頂けるものですか。

腰椎の後縦靭帯骨化症というのは、極めて稀です。後縦靭帯骨化症というのは、頸椎と胸椎に起こるのがほとんどで、腰椎の後縦靭帯骨化症というのは滅多にないです。私のこれまでの経歴のなかで腰椎の後縦靭帯骨化症の方は1人か2人。25年ぐらいやっていますね、もう少しやっていますね。30年弱やっているなかで、1人や2人ですね。腰椎で後縦靭帯骨化症があったとすると、やっぱり後ろから椎弓の切除術をおこなうのが多いと思います。すっきり椎弓を取ってしまうのではなく、椎弓の部分、一部分を取り除く、部分椎弓切除術というのを行うことが多いと思います。

(先生の診断に対して)まずですね、近くの主治医の先生のところに行って、そして必要となれば紹介して下さると思うので、あの、わざわざ大学病院のほうにこなくても、良からうと思います。十分に信頼すべき先生がたくさんいらっしゃいますので、そのようにしていただければと思います。で…必要であればそちらから紹介していただければと思います。

**Q16 女 67** 両足のほてりで夜が眠れない痛みがあるが、病状の悪化と関係があるのかお聞きしたい。

先ほどからいっていますけど、脊髄症でほてりとか、冷えがきますので、これが少しずつ強まっているとすれば、脊髄症が悪化している可能性が十分にありますね。この方、もし、後縦靭帯骨化症をもっていただければ。

**Q17 男 67** 前縦靭帯骨化といわれましたがどんな治療をしたら良いか。

前縦靭帯とは、椎体の前にあって脊髄とは全く無関係のところにありますので、一般に症状を余りださないですね。脊髄のあるところでしか脊髄症というのはおきないですから、脊髄の前にある後縦靭帯あるいは、脊髄の直ぐうしろにある黄色靭帯の病気でなくても脊髄が圧迫されることはあるんですね。前縦靭帯というのは、脊髄に関係ないところ、椎体の前のところにありまして、神経症状、骨髄症をだすことはないですね。ただし、あまり大きくなりますけど、膝下困難、物を食べられなくなるんですね。どんどん大きくなると、この場合ですね。のどの脇から入って、前縦靭帯骨化を取ってしまえば、また、しっかり食事ができるようになりますので、心配ありませんよ。この方。いざと言うときはそこをとってしまえばいいので。

**Q18 女 63** 後縦靭帯(頸椎)と腰の痺れ、足の痺れ関係ありますか。

先ほどと同じですので、省かせていただきます。

**Q19 女 62** 平成6年OPLL頸椎2,3,4を手術しましたが、5,6番も悪くなってきましたので、一度手術していますので難しいでしょうか。黒川式で手術をしました。胸椎にもOPLLがあります。

実はですね、一度手術している場所をもう一度やるのは、初回の手術に比べれば、はなはだ難しいです。そこが、正常の解剖構造を失っているので、初回手術ですと、皮膚があり、筋肉があり骨、骨髄といって骨の表面を覆っている膜があり、あるいは、黄色靭帯がありというように、教科書で学んだような解剖なんですけど、2回目の手術はそれらがバク肉のように、繊維組織に置き換わっていて、どこが筋肉でどこが靭帯かということが、分かりづらいですね。ですから、時間もかかりますし難易度増します。

でも、あの…十分に成功裏に手術をすることができますので、どうぞあまり心配せずに相談されたら良いと思います。手術後に、一旦手術をした後に、症状がすっかり取れない方もいますね。先ほど言ったように改善率でいうと60%ですから、すっきりと100%良くなればいいんですけど、そうはいかない場合も多いわけですね。

それに対して、あの、残念ながら、お薬、ビタミン剤とかというのを飲んでもいただきながら、あるいは、他のほうに関心をかけていただいて、ある程度我慢をしながら、耐えていっていただく場合があります。大変恐縮なんですが、他の有効な手だてがない場合があります。ただし、頸椎、手術をしたところが頸椎でいいですと、先ほど言ったように徐々に固定されてくる場合がありますので、硬くなると、それにつれて脊髄の障害がむしろ改善してくる場合がありますので、希望がないわけではありません。自然に体のほうで良くてくれる場合がありますので、そんなに落胆しないではいらないと思います。

**Q20 男 55** (胸椎に症状があります)前回の診察日に固まったら手術不能になるかも知れないと言われたが、先のスライドで、金属による固定手術を受けたのと同じような症状になるのでしょうか。(上杉の佐々木さん)

後縦靭帯骨化症があると、そして症状がありますと、患者は非常にびくびくして恐ろしい病気になったと思いますね。特に、胸椎ですと、医師も怖いものですから、患者さんにきついことを言いますし、医者そのものも心配なんです。後縦靭帯骨化症があって、症状をだしていると、頭がかぁーとなって、これは手術しなければ、手術すると悪くなるかもしれないと、心配が困ったということなんですね。えてして忘れることがあります。それは、後縦靭帯骨化があっても、そのお陰でその椎骨と椎骨間が動かなくなるという人がいるんです。固定されてしまう、自然に。そうしたら手術は不要です。むしろ良い方向に向います。

この話、実はですね、佐々木さんに私外来でいったんですよ。ですからね、金属による固定手術と同じような効果が得られるんですね。あわてない。…医者にもむしろ教育したい点なんですけど、後縦韌帯骨化があったらば、そこが本当に動いているのかどうか、自然にこいつている可能性はないかどうか、そういうのを見極めないでダメだと若い先生にはよく言っています。そういう側面があるのを知っておいで貰いたいと思っています。

**Q21 女 59** 5年ほど前に山形県東根市の病院で頸部、胸部の後縦韌帯骨化症との診断を受け、手術を含め治療法がないといわれていましたが、現在通院中の病院では胸部の後方からの手術を勧められています。自分としては、今の所歩行困難、痺れはありますが、幸いことにひどい痛みや排尿困難がまだ起きていないので、手術はできるだけしたくないのですが、した方がよいのか迷っています。

これは判断がなかなか難しいですね。あの…神様がここにいまして、「あなたの手術は十分成功裏に終わりますよ」と告げてくれるようでしたら、これは早ければ早いほどいいです。もう、脊髄症の手術は早ければ早いほど。改善率先ほど60%といいましたけれども、症状がでてから1年以内に手術をする場合と、1年を経ってから手術する場合で改善率がかなり違います。早期発見、早期治療なんですね。ですから、少なくとも、頸椎なんかですと早めに手術をしたほうがいいです。

胸椎はちょっと様相が異なりまして、軽いうちに手術をすれば、手術が成功裏に終われば非常に良くなるんですね。ところが、軽いうちに手術をして合併症がでた時の患者さんの落胆の程度ははなはだしいですね。相当症状が重くなって、たとえば、歩けなくなってから手術して成績が悪い場合に、患者さんの受ける落胆の度合いと、まだ歩いている。ピンピンしている。ただ痺れが軽いと言うふうな状況で手術をして、合併症で悪化した場合の落胆の度合いは違うと思うんですけどね。一步ですね、軽いうちに手術をすれば、治りも多いわけで、そのレントゲンがあります。胸椎の場合はですね。十分に患者さんと医者との間で話合って信頼関係が築けたならば、それで手術にふみこむ。あるいは、様子を見ろということが必要ですので、胸椎の後縦韌帯骨化症に関しては少なくとも医者と患者さんは十分に議論を尽くすべきであろうと考えています。

**Q22 女** 胸椎の重症の例を教えてくださいましたが、進行する可能性はありますか。どこまで進行するのか。スライドの例の方はどのような症状に至っていましたか。

一般には症状が進行していきます。先ほど言ったように自然に固まる場合を除いてですよ。自然に固定される場合を除いて、少しずつ少しずつ進行していくのが常ですから、油断できません。定期的に医者の診断をしっかり受けないとダメですね。

**Q23 男 71** 99年2月に頸椎手術(7年前)、その後3~4年後から特に右側(膝下)が冷たく感じられ、2~3年前から右足の指、足底、足の甲あたりが冷たい痛みがあるが、手術の後遺症でしょうか。最近(1年くらい前)左肩の後ろに突起のようなものがでて、時々筋肉がさかれるような痛みがあります。手術の結果によるものでしょうか。最近右足の底の筋肉の後遺症がどうも何故でしょうか。首が重くなるのは何故でしょうか。

先ほど来の質問と同じなので割愛させていただきます。

(首が重くなるのは何故ですか)頸椎の手術をうしろのほうでやりますと、二人に一人は肩こりをだしてしまいます。

先ほど椎弓形成術がどンドンどンドンやられるようになったと述べましたね。椎弓形成術をやりますと、残念なことに二人に一人は肩こりをだしてしまいます。でも、一般には一年もしますと肩こりは和らいでくれるんですけどね。

この方はそうでもないんでしょね。首が重くなるのはなぜですか。首の重くなるのが頸椎の手術後であれば、その頸椎の椎弓形成術後に生じた肩こりが長く続いているということと、お気の毒なんですね。あの…首の筋肉を鍛える。もし、水泳等ができるぐらいの症状の方ですと、水泳なんかでもいいですし、その病院に行って主治医の先生に首の筋肉を鍛える運動を教えてくださいのも一つの方法だと思うんですけどね。

**Q24 男 71** 親子の遺伝の関係? 確率? 手術後のリハビリ等で回復の度合いは。

皆さん非常に興味深々じゃないかと思います。後縦韌帯骨化症のある方が、親子でどのくらい遺伝するのかということですが、残念ですが信頼に至るデータがないんですね。兄弟のデータはでているんですけど、親子と一緒に写真をとる、あるいは、症状がでているかどうか調べるということは難しいんですね。親子の場合、兄弟ですと同じ年代で生きているから、データを揃え易いですが、親子ですとデータがでていないんですね。ですから、正確な科学的なデータでこれはお答えできないんですけど、しばしば外来で患者さんでいらっしゃいますけど。うちの親父も手術していたんだという患者さんと出会うことがありますから。そう…印象ですけども、数は多くないように思います。

**Q25 男 67** 治療薬で治療したいが薬品名を教えてください。

これも頸部脊髄症の場合には良い薬がないんですよ。後縦韌帯骨化症があると、肩こりがあったり、あるいは、痺れがあると、た

だ、絶えずある痺れではなく時々でる痺れとか、要するに脊髄症じゃない痺れの症状というのはお薬を飲んで功を奏する場合がありますけども、脊髄症であれば、残念ながら良い薬はないんですね。

**Q26. 男 67** 講演会初めて聞き、今までどんな病気か、どうなるのか不安でしたが、知り、OPLL少し安心しました。今、私の症状は両手・両足の痺れ、絶えず両下肢のはだけり、真冬でも掛物をかけないで、夏は両足を冷却して寝ている。排尿困難があります。手術の目安は、我慢できるのであれば、せぜにいた方がよいかと思っています。ただ、症状が年齢がたつうちにひどくなった場合が心配です。背部痛がとてもひどいのですが、OPLLと関係あるのでしょうか。

一般にはですよ。一般には手術は恐いでしょうね。この方、ただここで文面を読む限りにおいてはですよ、読む限りにおいては、両手両足の痺れが絶えずあると、それから、排尿困難もあるということですので、これは手術の対象になってしまいますね。あまり恐れずに、どうぞ手術勧められているのであればですね、十分に説明を聞いたうえで、納得して手術を受けられたらいいと思いますね。さもないと益々ひどくなる可能性があると思います。

それから、背部痛あるらしいですね。この人、背中が痛い。これもですね後縦靭帯骨化症からくる場合があります。これはしかしですね関係ない場合があるんで、やってみないとわからないです。これは、背部痛に関しては、この原因ちょっと今即答できないです。関係あるかも知れませんが、ないかも知れません。

**Q27. 男 65** 後縦靭帯骨化と脊椎管狭さくとの関連

直接的な関係はあまりないと思います。後縦靭帯骨化症の人で、首の手術をうけたと、その人が腰の脊椎管狭窄症、みのもんたの病気になるという確率はそう高くないです。ただ、頸椎の後縦靭帯骨化症の人が、胸椎の後縦靭帯骨化症を悪くしたり、黄色靭帯骨化症をきたしたりということは、関連があるんですね。

**Q28. 男 72** 一年半前頸椎は手術したのですが、腰椎にもかかげがあると先生にいわれたが、まだ痛みが強いので手術はできるのでしょうか。

あの…もちろん、腰椎が悪くて、本当に手術をするほどに重篤であれば、先ほど来からいっていますけども、主治医の先生と十分に議論のうえ、説明をいただいて納得されたら、手術を受けられたらいいんじゃないでしょうか。

**Q29. 女 50** OPLL OP後の薬物治療は対症治療が主ですか。OPLLは何故男性に多いのか。

(未回答)

